



▲各団体の長が熱く想いを語ったパネルディスカッション

**東北歴史まちづくりサミット  
東北の7市町が白河に集う**

11月10日、コミネス（会津町）で国の歴史的風致維持向上計画の認定を受けた東北地方の7市町が集う「東北歴史まちづくりサミット2016 in 白河」が開催されました。

国見町、磐梯町、桑折町のほか、県外からは、青森県弘前市、宮城県多賀城市、山形県鶴岡市が参加、歴史まちづくりの取り組みなどを紹介し、観光誘客などについて意見を交わしました。また、早稲田大学の有賀隆教授による基調講演も行われ、約300人の来場者は真剣な眼差しで耳を傾けていました。



▲新たに国史跡となった白川城跡（赤色範囲）

**白川城跡が国史跡に指定  
結城氏の本拠城が明らかに**

10月3日、これまで県指定史跡であった「白川城跡」（藤沢山ほか）が、正式に国史跡に指定されました。

白川城跡は、本市中心部の南東約2キロメートルの丘陵に位置する山城跡で、白河地方を治めた白河結城氏の本拠と言われています。

これまで行ってきた発掘調査で、南北朝時代から戦国時代までの城跡の変遷が明らかとなりました。

国の審議会で、「東北南部の鎌倉武士の政治的發展と変容の歴史を知る上で貴重な遺跡」として、高い評価を受けました。



▲公開選考会ならではの臨場感に包まれた会場の様子

**第22回中山義秀文学賞公開選考会  
朝井さんの「眩」が受賞**

11月13日、白河信用金庫西支店新白信ビル（立石）で、芥川賞作家中山義秀を顕彰し、優れた歴史・時代小説をたたえる「第22回中山義秀文学賞公開選考会」が行われました。

会場には多くの文芸ファンが集まり、作家の高橋義夫さん、竹田真砂子さん、中村彰彦さん、文芸評論家の清原康正さんら4人の選考委員が、21点の応募作品の中から最終選考に選ばれた3作品を論評しました。

選考の結果、葛飾北斎の娘で天才女絵師応為の生涯を描いた、朝井まかてさんの「眩」が受賞しました。



▲久保田氏の指揮による特設ジュニアオーケストラの演奏

**第20回しらかわ音楽の祭典  
コミネスに響く市民のハーモニー**

11月5日、コミネス（会津町）で、「第20回しらかわ音楽の祭典」第一部市民音楽祭が行われ、小中学校・高校・一般など30団体が合唱や合奏などを披露しました。

今年は、第20回を記念し、参加団体の小中高生を対象にジュニアオーケストラが結成され、特別プログラムとして久保田悠太香氏の指揮・指導による、市民歌「このまちがすき」や「南湖のほとり」の演奏が行われました。最後は、客席の合唱と一体となり、歌と演奏の美しいハーモニーがホールに響き渡りました。



▲明るく開放的な吹き抜けの前でテープカットを行う関係者

**マイタウン白河リニューアル  
新たな創造交流空間が誕生**

11月15日、マイタウン白河（本町）のリニューアルオープン記念式が行われ、関係者がテープカットで新しくなった施設の誕生を祝いました。

昭和46年に商業施設として建設された同施設を、多様な市民活動に対応する空間としてリニューアルしたもので、建物中央には開放的な吹き抜けができ、カフェやチャレンジショップなどが設けられています。

また、3階には来年4月に開校するしらかわ介護福祉専門学校が入居することから、若者を中心とした幅広い交流が期待されます。



▲地元企業のピザづくり体験に参加する子どもたち

**Decoraしらかわ2016  
未来と希望をデコレーション**

11月5日・6日の両日、JR白河駅前イベント広場で「Decoraしらかわ2016」が開催されました。

ステージでは音楽やダンスが繰り広げられたほか、飲食ブースではご当地グルメや、山田剛嗣シェフによる世界一の限定パスタなどが提供され、来場者が長蛇の列を作りました。

恒例の日本一長いクレープ作りでは子どもたちが70メートルのクレープを完成させ、りぶらんでは、地元企業や伝統技術などの体験ブースが設置され、ものづくりに挑戦する家族連れの姿などが見られました。